



国際機関で働こう！



高校生のみなさんへ

国連をはじめとする国際機関は、貧困、紛争、難民、人権、感染症、環境問題など、国際社会が直面する様々な課題に取り組んでいます。特に現在、国際社会は、国連が定めた持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に向け努力しています。皆さんも、将来、国際機関職員として、グローバルな課題の解決のため世界の舞台上で活躍してみませんか？

国際機関の仕事では、理系・文系を問わず、幅広い人材が必要とされています。

開発、教育、食料問題、医療、気候変動などの現場中心の分野や、弁護士、会計士、人事、広報、ITなどの支援業務など、様々な分野の専門家があり、あなたの「得意」を活かせる道が見つかるかもしれません。国際機関就職のためのキャリアを積むには、ある程度経験が必要となることから、早い段階でどんな準備が必要かを知っていただくことが重要です。自分の目指したいポストではどのような職務が求められるのか、応募にはどのような能力や経歴が必要か、といったことをまずは見てみましょう。

国際機関職員になるには

英語力

英語で仕事ができること

修士号

専門性のための学問的な裏付け

職歴

専門性のための即戦力としての裏付け

国連職員に求められる資質 (UN Core Values)

を備えている必要があります。

国連職員が仕事を進めるにあたって意識すべき原則は

誠実さ

専門意識

多様性尊重

の3つです。

国連職員に求められる能力 (UN Core Competencies)

コミュニケーション力

チームワーク

企画運営力

説明責任

創造力

ニーズ対応

学び続ける意欲

技術習得

の8つが挙げられ、それぞれ自分が有している経験や能力を応募書類や面接でアピールします。



UN Photo / Evan Schneider

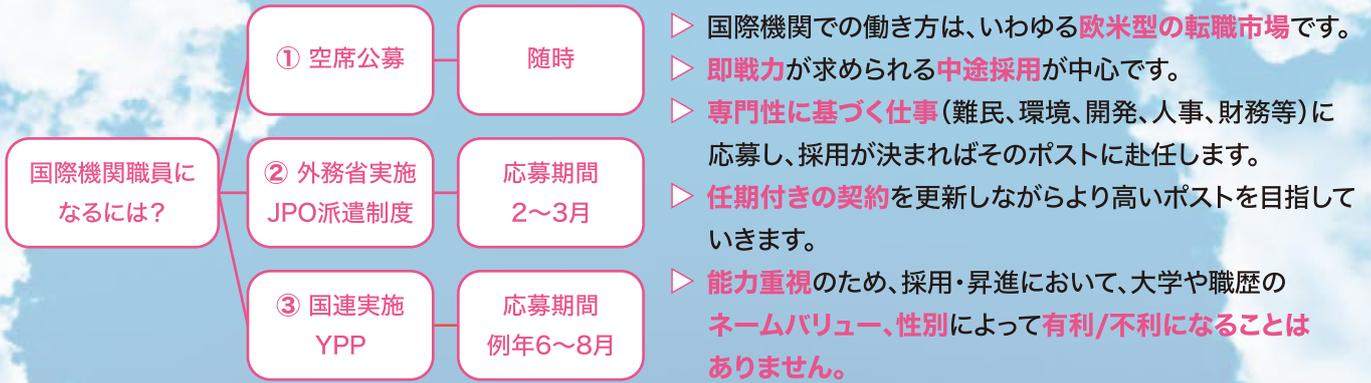


UN Photo / Isaac Billy



UN Photo / Mark Garten

国際機関職員になる方法



国際機関職員になる方法はいくつかありますが、高校生の皆さんは、まずは、外務省が若手の日本人を対象に実施している、JPO派遣制度を目指すことをお勧めします。現在、JPO試験受験者の約5～7人に一人が合格し、国際機関に派遣されています。JPOは、派遣期間の間に、国際機関職員として必要な知識や経験を積み、派遣期間終了後は自分の力で空席公募から正規の採用を獲得することが期待されています。現在、国連関係機関で活躍する約960人の日本人職員(専門職以上)のうち、約半数がJPO出身者であることから、日本人職員の多くがJPOから国際機関のキャリアをスタートしていることがお分かり頂けると思います。

JPO(ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー)の応募資格

- ▶ 35歳以下であること(応募年の2月1日現在)
- ▶ 2年以上の職歴があること
- ▶ 仕事をするのに十分な英語力があること
- ▶ 修士号以上の学歴
- ▶ 日本国籍
- ▶ 将来にわたって国際機関で働く意思



オンライン国際機関就職セミナーを開催

現在国際機関職員で活躍されている日本人職員の経歴や、経験談を聞いてみよう！
国際機関人事センターでは、JPO出身の方々に登壇頂いてセミナー(無料)を実施しています。

情報・お申し込みはこちら



国際連合児童基金(UNICEF)セネガル国事務所 川合菜月さん(2022年度JPO)
セネガル北部ルーガ州にて、UNICEFが支援する地域の子どもの栄養モニタリング活動を視察している様子



経済協力開発機構(OECD)本部 坂田三太郎さん(2020年度JPO)
オフィスでの仕事風景



国連世界食糧計画(WFP)ラオス国事務所 田才諒哉さん(2022年度JPO)(前列中央)
ラオス ルアンパバーン県ボンサイ郡にて、ラオス国事務所及びフィールド事務所の同僚とともに、コミュニティの人たちへの栄養教育及びベースライン調査を行った様子

国際機関職員になるための主な方法や制度、職員の方の経歴等についてご紹介

国際機関人事センターWEBサイトに、国際機関職員のインタビュー動画・応募のアドバイスなどを掲載しています。



SNS公式アカウントでは、国際機関人事に関する新着情報及びセミナー情報などを配信しています。

パンフレットをぜひご覧ください！



外務省 国際機関人事センター
Mail : jinji-center@mofa.go.jp

